

医学部1年生を対象とした インストラクショナルデザインの授業実践

Practice of the Instructional Design Class for 1st Year Medical Students

浅田 義和

Yoshikazu ASADA

自治医科大学, 熊本大学大学院

Jichi Medical University, Kumamoto University

＜あらまし＞筆者は2013年度より自施設の医学部1年生に対してインストラクショナルデザイン（以下ID）に関する選択科目として「インストラクショナル・デザイン入門」を開講している。本授業ではIDの理論に関する紹介および理論を利用した授業分析等を通じ、学習者および教育者、両者の視点からIDを学ぶことを目的としている。授業の実践においては講義および学生とのディスカッション、moodleを利用した知識確認の小テストやフォーラム上での各自の経験などに基づいたディスカッションなどを並行して利用した。本発表では、2013年度および2014年度の授業実践の結果を報告し、今後の運用についての課題について述べる。

＜キーワード＞ インストラクショナルデザイン 初年時教育 moodle 大学教育 授業実践

1. はじめに

筆者は2013年度より自施設の医学部1年生に対してインストラクショナルデザイン（以下ID）に関する選択科目として「インストラクショナル・デザイン入門」を開講している。医学部における最終的な目標は医師を目指すことであり、IDの専門家になることではないが、患者や家族に対する病状の説明などにおいて、「教える」という行為を実践することになる。また、6年間の学習を通じ、特に臨床実習などにおいてお互いに教え合う場面も増加することが想定される。このため、IDに関する基本的な知識を身につけておくことは有意義であると考えられる。さらに、常に研究が進んでいる医学分野においては医師免許を取得した後も学習を続ける必要があり、学習者としての立場も継続していくことになり、この点からもIDの知見は応用可能であろう。

本授業においては、IDの理論に関して基本的なものを紹介し、自分たちがこれまで受けた授業に関して分析しながら知識の確認・定着を目指すことを行った。また、IDの知識を学ぶことを通じて、学習者としてIDの知見をいかに活かすことができるかをディスカッションする機会も設け、今後の5年半の学習を有意義に過ごすことができるような取り組みを行ってきた。授業実践においては座学の時間以外にmoodleを利用し、知

識確認の小テストやフォーラムでのディスカッションを宿題として提示し、学習の促進を行った。本発表では、2年間の授業実践の紹介とまとめ、今後の運用課題に関して整理する。

2. 方法

2013年度および2014年度の1学期に、医学部1年生に対してそれぞれ10回の枠でIDの授業を行った。2013年度ではARCSモデルやガニエの9教授事象などの理論を紹介するほか、医学部の学習やシミュレーション教育におけるIDの利用例の紹介を行った。

2014年度では学習者とのディスカッション機会を増やすため、紹介する理論の種類を絞り、それぞれの理論を用いた授業の分析や改善を行った。さらに、学習者としてより効果的な学習機会を作り出すためにはどうすれば良いか、各授業においてディスカッションを行った。

授業実践においては教室での講義形式の他、学内で設置しているmoodleを利用し、追加資料の提示や小テスト、フォーラムでのディスカッションなどを宿題として提示した。小テストやフォーラムのディスカッションは最終成績に加味するものとして実施した。

両年度において、各回の授業後には意見・感想シートとして自由記述形式の用紙を提出させた。

これはアンケートとしての利用の他、その授業のリフレクションとしての側面も持たせた。このため、次の授業時には意見・感想シートの内容を筆者が整理し、簡単な紹介やまとめを通じて前回の振り返りを行う形式とした。

授業の最終課題としては、2013年度には「自分が1学期に受講した授業の1つについて、IDの知見を用いて分析し、良い点や改善点を挙げることをレポート課題とした。また、改善点を挙げる際は問題点を指摘するだけでなく、可能な限り「自分ならどのように改善して、授業実践するか」の意見を記載させるようにした。

2014年度は授業中の時間を利用し、以下の2つのレポートを作成させた。

レポート1：これまで学んだIDの知見を元に自分自身の学習スタイルを整理し、今後の学びを効果的・効率的に行っていく方策を整理する

レポート2：自分が興味のある物(学問でも趣味でも)について、他人に教えることを想定して、IDの知見に基づいて講習の計画書を作成する

いずれも筆者がワークシートを作成し、学生にはそれを埋めさせる形での記述・提出を行わせた。

また、2014年度の最終回の授業時には、授業評価のアンケートと合わせた簡単なクイズを提示した。例えばARCSモデルについては、ARCS評価シートの16項目をランダムに並び替え、各項目について7段階で評価させた後、それぞれがA,R,C,Sのどの項目に属しているかを回答させる形式とした。アンケートの一部を図1に示す。

3. 結果

2013年度は14名、2014年度は7名の受講者で開講した。最終課題については全員が提出し、単位取得要件を満たしていた。

2014年度の授業評価アンケートではARCSの各項目について7段階評価で6前後の平均が得られた。一方、ARCSの各項目についてのクイズについては全問正解者はおらず、特に「やりがいがあった」という表現の項目については全員がAまたはSを選択して誤答していた(正解はR)。

自由記述のアンケートにおいては、今後の学習に役立てて行きたいという意見のほか、学生だけでなく基礎教育担当の教員全員にも受講して欲しいという声も得られた。

	評価							ARCSのどれ?
やりがいなかった	1	2	3	4	5	6	7	やりがいがあった
できても認めてもらえなかった	1	2	3	4	5	6	7	できたら認めてもらえた
自信がなかった	1	2	3	4	5	6	7	自信が持った
どうでもいい内容だった	1	2	3	4	5	6	7	身につけたい内容だった
好奇心をそそられなかった	1	2	3	4	5	6	7	好奇心をそそられた
眠くなった	1	2	3	4	5	6	7	眠くならなかった
自分なりの工夫ができなかった	1	2	3	4	5	6	7	自分なりの工夫ができた
評価に一貫性がなかった	1	2	3	4	5	6	7	評価に一貫性があった
自分には無関係だった	1	2	3	4	5	6	7	自分に関係があった
目標があいまいだった	1	2	3	4	5	6	7	目標がはっきりしていた
途中の過程が楽しくなかった	1	2	3	4	5	6	7	途中の過程が楽しかった
マンネリだった	1	2	3	4	5	6	7	変化に富んでいた
すぐには使えそうもない	1	2	3	4	5	6	7	すぐに使えそう
学習を著実に進められなかった	1	2	3	4	5	6	7	学習を著実に進められた
不満が残った	1	2	3	4	5	6	7	やっとなかった
つまらなかった	1	2	3	4	5	6	7	おもしろかった

図1 ARCSに関するクイズ&アンケート

4. 考察

授業評価のアンケートから、学生の満足度は総じて高く、他の授業と比較しても積極的に参加できたという声が多数得られた。一方、学生のアンケートから得られた意見として「教員に対するIDに関するFD実施の必要性」については、今後の課題として検討する必要がある。

現在、筆者は医学部や看護学部においてeラーニングやeポートフォリオに関するFDを担当している。これと合わせてIDについても「eラーニングやeポートフォリオを効果的に利用する方略」という形で講習の内容に少しずつ盛り込み、教員への周知を広げて行く必要があるだろう。

今回の授業において、学習者が小人数であったこともあり、ディスカッションが充実できた反面、IDを学生全体に周知することはできなかった。2学期以降には課外セミナーの形でIDの講義を実施していく予定だが、合わせて動画講義の作成などを通じて興味のある学生が閲覧できるよう工夫をしていく予定である。

医学部ではカリキュラムの関係上、入学前に選択授業も含めた履修登録をすべて行う必要がある。学生はシラバス情報のみで授業を選択する必要があるが、動画の作成は授業風景の参考資料として合わせて提示することにも役立つだろう。

参考文献

[1] ARCS評価シート, http://www2.gsis.kumamoto-u.ac.jp/arcsguidebook/html/about_sheet.html (accessed 2014.7.15)